

安心・安全
 心・続
 けら
 れる
 世
 界
 の
 平
 安
 祈
 り

知ら咲か



2016 MARCH No.34

(編集発行)「知らせましょ・咲かせましょ」事務局・広報(住所)宝塚市逆瀬台 URL <http://www.shirasaka8.net/>

小さな話題や出来ごとを拾いお伝えします

「知ら咲か」はこのまちの皆様の架け橋役を旨とします

「知らせましょ・咲かせましょ」の活動の一つに「広報紙」の発行があります。現在、三十四号まで多くの記事をお届けしました。今後もいろいろな街角の情報を集め掲載を続けていきます。投稿記事や取材依頼もお受けしています。

■まちの出来事をお伝えしています

白瀬川両岸エリアや隣接地域での出来事を拾い集めて発信してきました。

宝塚ゴルフ倶楽部のネットの上で動けなくなったアライグマをお伝えする中では特定外来生物について考えていただきました。

ハイカーの煙草のポイ捨てが原因と思われる山火事もお伝えし、自然と共生する私達のマナーについて注意喚起しました。同じくマナーで減らない公園や道路脇のゴミ放置問題も取り上げました。

■八つのマンションの活動を紹介

白瀬川両岸八マンションそれぞれにいろいろな活動が行われています。サロンやサークルなどには、他のマンションからの参加も歓迎しているところも多くあります。お互いが知り合い、元気に楽しく過ごせる街として、このような活動を応援する記事を書き続けていきたいと考えています。

■災害への備えの特集

どこで何が起こってもおかしくないのが昨今の気象、自然現象です。私達の白瀬川両岸地域の特徴的な地形や自然条件

についての知識や行政情報を拾い集めたり、災害への備えなどを幅広く取材し記事として提供します。

■見守り、助け合いのヒント

「知ら咲か」のスタートは地域での見守りや助け合いの輪を広げることが目的でした。この原点を大切に、お子さまから高齢の方までが、いつでも手を取り合って生きていくことが出来るまちづくりへのいろいろな提起を行っていきます。

■「知ら咲か」の各種事業告知

「知ら咲か」では「粗大ゴミ回収」など高齢化問題などに起因するいろいろな事業を行っています。

これらの事業をうまく活用していただくために告知を行っています。

■活躍していただける方への呼びかけ

ボランティアなどで地域貢献していただき、生きがいづくりにつなげていただくよう参加の場を提案していきます。

■取材・編集もボランティア

記事を集めたり作成する方はすべてボランティアです。ご参加下さい。

新年度総会開催準備中

「知ら咲か」が発足して三年が経過しようとしています。この間、紆余曲折、試行錯誤しながらの活動でした。

会費協力をいただいた方や、労力、知恵を提供していただいた方々の期待の数分の一しか成果を上げることができていないのかも知れません。

現在、事務局内で今年度の反省や組織の見直し、さらにはあり方自体も討議しています。新年度の方針と合わせて会則等の変更も提案させていただけるよう検討を加えています。

会費ご協力いただいている会員の皆様には三月中旬から末頃にかけて総会のご案内を差し上げます。又、会員以外の方にも四月一日号「知ら咲か」で総会のお知らせをさせていただく予定です。多数参加下さいますようお願い致します。

又、お近くの「知ら咲か」メンバーにご意見やご提案を頂けますようお願いいたします。

■総会開催予定

一〇開催日 四月十七日(日)

〇総会 十一時より

〇懇親会 十二時〜十三時頃

二. 開催予定場所

〇逆瀬川マンション集会室

三. 審議事項

〇活動報告・会計報告・監査報告・方針
 予算審議・会則変更・組織提案等

防災講演会「いま、防災を考える」に参加して

レポーター 阪急逆瀬台アヴェルデ
都築直幸

講師：宝塚市都市安全部危機管理監 山中毅氏

1. 日 時：平成 28 年 1 月 30 日（土）10：00～11：30
2. 場 所：宝塚西山住宅集会所
3. 主 催：宝塚西山住宅自治会、パークマンション管理組合
4. 後 援：宝塚市社会福祉協議会、白瀬川両岸集合住宅協議会



講演は、白瀬川両岸集合住宅協議会会長、千秋氏の「防災は自分のことは自分で守る」との挨拶でスタートしました。

講師山中氏の講演は、映像にトークを交えての説明に、約 20 名の参加者は熱心に聞き入りました。

地震に備える

1. 最初に、過去に発生した大地震が映像により、紹介されました。
 - ・関東大震災 1923 年（大正 12 年）マグニチュード（以下 M）7.9
 - ・鳥取地震 1943 年（昭和 18 年）M7.2 ・東南海地震 1944 年（昭和 19 年）M7.9
 - ・南海地震 1946 年（昭和 21 年）M8.0 ・宮城県沖地震 1978 年（昭和 53 年）M7.4
 - ・阪神淡路大震災 1995 年（平成 7 年）M7.3
 - ・東日本大震災 2011 年（平成 23 年）M9.0

死者が 1,000 人以上発生した地震は、約 10 年毎、5,000 人以上は、約 5 年毎に発生している。

「災害は人ごとでなく、自分のこととして考える」

2. 今後 30 年以内に 60～70%の確率で発生するとされている「南海トラフ地震」が発生したら、逆瀬台地区の震度は 5 強（*）と予想されている。

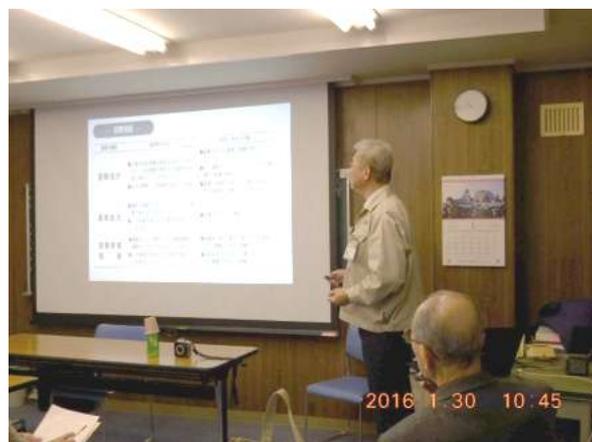
*震度 5 強：人の行動に支障が出る。未固定の家具は倒れ、窓ガラスが割れることも。

3. ・家具の転倒防止対策を行う。
 - ・寝室の枕元に備えておきたい物：笛、メガネ、靴、懐中電灯。

風水害・土砂災害に備える

1. 過去に発生した台風、土石流、洪水災害
 - ・1934 年（昭和 9 年）室戸台風、3,600 人を超える死者が出た。
 - ・1959 年（昭和 34 年）伊勢湾台風、5,098 人の死者が出た。
 - ・2014 年（平成 26 年）広島県北部で大規模な土石流発生、70 名を超える死者が出た。
 - ・2015 年（平成 27 年）茨城県で 50 年に一度の大雨により、鬼怒川の堤防が決壊、人、家、インフラに大きな被害が発生した。（住民にとっては、まさかの出来事）

2. ・宝塚市では、土砂災害発生危険が予想される個所が 263 箇所あり、その内、特に危険な個所が 70 箇所あり。
- ・そこで、市内 16 箇所に雨量計を設置し、がけ崩れの危険がある個所については、1 時間あたりの雨量が 20 ミリを超えると、巡視している。
 - ・雨量計で計量した雨量は、市のホームページ等で、雨量情報として発信している。
 - ・水害に合わないためには、どしゃぶり時には外出しない。不急、不要の外出はしない等を心がけて下さい。
 - ・がけ崩れの前兆（崖から音がする等）や、土石流の前兆（山鳴りがする、腐った土のにおいがする等）を察知した場合は、速やかに避難して下さい。
 - ・地域の危険個所、避難所等が分かる「宝塚市防災マップ」を以前、全戸に配布しておりますので確認して下さい。なければ、市役所でいつでも受け取れます。逆瀬台は第 2 地区版です。
 - ・竜巻に備える：竜巻は激しい突風が発生するため、「竜巻情報」が発表された場合、積乱雲が近づく兆候が確認されたら、丈夫な建物に避難する等、身の安全を図って下さい。



災害に備える

1. 情報収集手段

- ・宝塚市の安心メールに登録しておく。
- ・テレビの d ボタンを押して情報を見る。
- ・ラジオで「エフエム宝塚」（83.5 メガヘルツ）を聞く。・市の広報車。

2. 危険を感じたら直ぐに避難する。・一度避難したら決して戻らない。

3. 避難する時、豪雨時等は無理して避難所を目指すより、垂直避難が安全な場合がある。

4. 垂直避難は少なくとも 2 階以上の階に避難する。

5. 正常性のバイアスの働きに注意する。（*）*正常性のバイアス：人は予期しない事態に直面した時、こんなことは「ありえない」（実際は危機に直面しているのに）という先入観や偏見（バイアス）が働き、その事態を「正常の範囲だ」と思ってしまうこと。

*上記のような脳のはたらきがあることを知って、本当に危険なのかどうかを見極める力を、養っておく必要がある。

6. イザの時に備え、保険に加入しておく。

7. 避難所に避難するかどうかはよく考える。例えば学校の場合、生活を考えた造りになっていないため、不便なことが多い。それでも余儀ない場合、避難所生活に性による負担の片寄があってはならない。（平等でなければならない）

最後に

災害については、過去の自分の体験・知識だけで判断しない。災害は発生するかどうか分からないのではなく、必ず発生すると考えて備える。

山中講師の話のまとめは、この言葉であったと、私には思われました。

知識を得ようとする気持ちを持ちたい

何が必要？

自分が住んでいるマンシヨンのポストを眺めて気が付くことがありますか？「チラシの投函お断り」の文言。

チラシ、情報紙誌類を入れしないでください
【郵便物、メール便の投入可】

私たちが普通の生活するうえで知識として何が必要でまた必要でないのか考えたことがありますか？ 漠然とした話で恐縮ですが生前私の父が知っていたことが大きな助けとなったことを書かしていただきたいと思っています。

父が八十歳のころアメリカ旅行からの帰国当日ニューヨークの空港で飛行機搭乗を待っているとき、食道静脈瘤が、破れ意識不明の状態になり緊急入院を十日間しました。幸い十日の入院で帰国



できるまでに回復しとりあえず無事帰国しました。

医療費の負担

医療費の請求が後日ありましたが、300万円弱でした。アメリカは医療保険が高いのはもちろん知っていました。日本の医療制度に慣れていないものにとってはあまりに高額であられるばかり。保険が嫌いな父は国民健康保険以外何一つ加入しておらず自費で支払いました。帰国後そんな父が「アメリカと日本で医療保険の互換制度の協定があったはず」と言い、調べてほしいとのこと。

要はアメリカで治療を受けた際は日本の国民健康保険がそれを肩代わりするという誠にありがたい協定らしい。以前、新聞に出ていたというところで市役所の国民健康保険課に向き相談すると私としては思いもかけない返答で「保険対応が可能」とのこと。最終的に270万円くらい還付してもらった思い出があります。

知っているのと知らないでは

そのとき思い知らされたことは『知っているか知らないかで大違い』ということです。現代社会は情報があふれています。どんなことも一度知ったうえで自分に必要なこと・家族に必要なことを判断してから不要な情報を捨ててはどうでしょう。情報の中にはすぐ役立つもの将来役立つ・役立つかもしれないものがあります。最初から拒否するのは損をしているように思えてならないのですが。

追伸

知らない・・・

原稿を書き終わった後にラジオを聴いていて面白い話をしていたので追加で書きました。

「カフェで後ろの女子集団の会話聞こえてきた。『カレシがあ、なんかあ、日本電気？とかいう電気屋に就職するとか言ってるえ、そこらの電気屋とか有り得なくない？』えっ」

この話おもしろくないですか？

NEC



「日本電気」に就職する彼氏に「別れるってメールして着拒した」という。確かにこの話ネット上でも話題になっていて当事者の日本電気は「なぜか弊社が今話題の模様。多くの人にどんな会社か知っていただけるよう精進します。」と困惑気味。「NECは正式名称『日本電気(にっぽんでんき)株式会社』っていいいます」NECは言わずと知れた大企業、そんなところに就職できる彼を捨てるとは・・・

(や)

午後のふれあいサロン・ひまわり 『非常食の味見会』

1 月は阪神淡路大震災が起こった月でもあり、新聞やTVニュースには震災報道が踊っていた。この頃になると災害の備えについて話題になるが、2月4日（木）にパークマンション集会室で災害時に備蓄を考える『非常食の味見会』なるものが行われたのでのぞかせてもらった。



昨年、白瀬川ブロック主催で行われた 8 マンション合同避難訓練時に宝塚市より提供された非常食以外に今回新たに準備された缶詰・缶入りパン・缶入りデザート・乾燥野菜など目新しい食品も味見させていただいた。

催しにあたっては世話人の宮部さんをはじめサポートメンバーに飲み物などを準備していただき、楽しい 2 時間であった。

試食を始める前に宝塚市の非常食の準備状況が報告されたが市内 8 か所に 2 万 5 千人の 2 食分だけが保管されているということで到底市民全員に行き渡る量ではないという現実があり、各家庭でできる限り備蓄することが推奨されている。



今回の味見会で個人的に思ったことは食べるものについては非常食と意識していないもので代わりになるものが日常品にあふれていること。どちらの家庭にもインスタント食品や缶詰はあるだろうし買い置きがしやすい。袋菓子もしかり 3 日程度の食料はそう意識せずとも何とかかなりそう。

冒頭のお話の中でローリングストック法という言葉を知ったが「保存品を使っていきながら保存する」という循環のさせ方。

試食させてもらった食品の中で缶入りパンはそれなりに美味しい。缶入りデザート（チーズケーキ・チョコレートケーキ）珍しくは思ったが災害時にわざわざ食べる？っていう印象。人それぞれ考え方はあると思うがそんなに心配する必要はなく、必要があるのは「飲料水」。災害時には電気の復旧が早くガス・水道は時間を要するようでまず飲料水の確保が重要と感じた。携帯ガスコンロの所持をしていれば「飲料水」だけでも十分耐えられるだろう。

『買い置きは簡単だが、(水)の貯め置きは難しい』

(編集部 取材)



宝塚市上下水道モニターに参加しました



この度平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日のモニターとして 1 年間学ばせていただきました。毎年 20 名が選ばれ、全 5 回にわたり上下水道に関する資料を基に講義を受けたり施設を学びました。

すべて初めてのことばかりで「目からウロコ」でした。あまりにも知らないことが多いのは私ひとりだけでは無いと感じました。こども達の未来のために大人の自分がしっかりしなくてはと感じました。「百聞は一見にしかず」、モニターとして学ばせて頂いたことに感謝しています。28 年度モニターに是非参加されればと思います。どなたでも応募できるそうです。「目からウロコ」です。

蛇口をひねれば安心して水が飲める。1 人 1 人の自覚があればきれいな水をおいしく飲めることを痛感しました。私たちが健康に生活できるのも上下水道の施設に携わっている職員さんの責任感のおかげだと思っています。

宝塚市の水道のあゆみ

今は水道の蛇口をひねれば、きれいな水がほしただけ使えます。では、昔の人は飲み水や生活に必要な水は井戸水や小川の水等に頼っていました。しかし、井戸水や小川の水には微生物が混じって、衛生的にも悪く、又、夏には枯れたり、大雨や、長雨の後は水も濁っています。このため、私達が安心して飲める水道を作ろうという事になりました。

私達の街にも昭和 27 年 4 月に水道は出来ました。その時は 2 万人の人が 3600m³が使える計画で始めました。それ以後 7 回も水道を広げる工事を行い、今では、1 日 11 万 m³の水を 24 万人の人に送れるようになりました。

ダムの見学 (2 回目)

まず、一庫ダムは湖底からダム上の通路までの高さは 75m (通天閣は 103m)、総貯水量 3330 万 m³ (1 m³は 1000 ㍁) 京セラドームで 28 杯分です。

60 万人の水道用水として使用、一人が 300 ㍁を使用したとして 60 万人では 6 ヶ月分の量、一庫ダムは私達の財産です。水は天からの恵みです。資源を大切に!!

一庫ダムの働きは

- ① 洪水から人を守る・・・大雨で流れ込んだ水を貯水池に一時蓄え、その後少しずつ流して、水道の水等に使います。下水の洪水被害を少なくする。
- ② いつも川に水が流れるようにします。川の生き物や草木にとって水は大切なものです。川の水は田畑にひかれ作物を作るのに使われます。
- ③ 水道用水を送ります・・・およそ 60 万人が使う水道用の水を川を通じて浄水場に送ります。
- ④ 管理に使う電気を作ります・・・ダムから流す水の力を利用して最大 1900 k w の発電をしています。発電した電気はダム管理に使用し、残りは電力会社に売って管理費の節減を図っています。年間約 1000 世帯分の消費電力を発電します。



川下川貯水池 (ダム)

このダムは水道専用です。

川下川の水を貯留し惣川浄水場 (宝塚市すみれが丘) に送る。そこで浄水処理をして市南部の武庫川左岸側を中心とする地区へ給水しています。西谷地区の玉瀬浄水場へも給水して水道の水源として利用します。

下水道のしくみ

下水とは、家庭、施設等の敷地から出るすべての雨水と汚水をいいます。

汚水とは雨水以外の下水すべてをいいます。敷地から出る汚水は集められた後、道路の下に埋められている下水道管に流れます。汚水管には中を掃除したり点検するためにマンホールが設置されています。宝塚市ではマンホールの蓋には、すみれの花が描かれています。マンホールが丸いのは、蓋も丸いのでどう向いても直径の長さは同じで中に落ちないから作業がしやすいのです。

汚れた水は浄化センターで綺麗な水にして、川や海にかえます。下水は約 2 時間滞留させ、砂や浮遊物を取り除きます。さらに水を綺麗にするには約 7 時間空気に接触させ、この間に泥の中にいた微生物が下水の栄養分を吸収・消化して増殖を繰り返し、きれいな水と汚泥に、分かれさせます。約 3 時間滞留させ、活性汚泥を沈殿させます。上澄水は綺麗な水となり消毒して海に放流されます。魚や水鳥が気持ちよく泳いでいます。

下水汚泥広域処理場へ送られた汚泥は、濃縮脱水後は焼却処分されます。焼却灰は煉瓦やブロック、海の埋め立て、その他色々にリサイクルされ役に立っています。

溝にはゴミや空き缶を捨てないで下さい、下水管が詰まります。トイレはトイレットペーパー以外は流さないで下さい、トイレやポンプが詰まります。台所では油や野菜の屑を流さないで下さい。特に油は微生物が働けなくなり死んでしまいます。お風呂も石鹸カスや髪の毛は流さないで下さい。



浄化センターの 1 日の電気代は 70 万円、反応タンク電気を送る扇風機の電気代に 73%、下水を汲み上げるポンプの電気代に 25%、その他に 2% です。汚泥処分費は、1 日 260 万円 3689 立米/1 日×700 円/立米=2,582,300 円。水道代の事もなんとなく分かりました。宝塚市は芦屋市と同じ県内で 2 番目に安いという事でした。

私達の国ではどこでも水道水をおいしく飲めることにとっても喜んでいきます。施設で使用する電気はすべて自家発電で賄っています。余った電気は他に売るそうです。(寄稿者 0)

雑学メモメモ帳

ビール豆知識「その②」

ビール大好き人(男性)

(フルーツビール)

最も伝統的なフルーツビールはベルギーのランビックビール(野生酵母を使用した自然醗酵タイプ)をベースにしたクリーク(チェリー)とフランボワーズ(木苺)ですが、このランビックベースでなく培養酵母を使用したものも世界で造られています。

どちらもビールにフルーツを漬けた歴史があります。今は交通手段は発達しているの



でその名残と言えます。味わいはやはり赤ワインのようなスパークリングワインのようなものによるとワインより美味しいものも有ります。(個人的な見解、普通ビールではありえない事です)



ビックベースのビールは一年々三年寝かしたものの味が味わい深くなっている場合があります。

そして、やはり女性に特に人気があります。

チェリー、フランボワーズ以外にも克蘭ベリーやカシスとかプラム、中にはバナナ味もあります。私はアメリカでベリー系のフルーツエッセンスが入ったビールを飲みましたが、鼻に抜けるフレーバーが石鹸みたいで良くなかったです。

やはりベルギーはグルメの国だと感心させられます。

ランビックビールは若いビールと三年ものとか色々な条件のビールをブレンドして造られ日本酒で言う蔵つき酵母を環境をなるべく変えず大事にして造られる・・・そこに魔法があるのかもしれない。学校の美術の教科書にブリュゲルの「ワインをつぐ農民」と紹介された絵画作品があります。あれは「ランビックをつぐ農民」の間違いです。



ベルギービール

白瀬の自然

ユキヤナギ

春先に公園や生け垣でいくつもの枝が垂れ、白い小花を咲かせます。

中国原産という説もありますが、日本原産と考えられています。自生種は石川県で絶滅危惧種に指定されるなど、地域的には絶滅が危惧されています。

手をかけなくても成長し、1.5m位になるので公園や庭先でもよく見かけます。

株元から沢山の枝を出してわさわさと茂ります。又、長くアール状に垂れ下がった枝の小さな無数の白い花も特徴です。

枝が垂れ下がるというだけで、種としては柳の仲間ではありません。

ユキヤナギ (雪柳) の学名は *Spiraea thunbergii* でバラ科シモツケ属の落葉低木です。

白瀬川両岸エリアでも道路脇の植栽や公園、白瀬川沿いに小さな花を咲かせた雪柳を見ることが出来ます。こぶしや桜なども同じ頃に咲き始めます。春を告げる花として雪柳も心を躍らせる役割を果たしています。



左の写真は白瀬川沿いのこぶしの花 (高い位置に咲いている) と下の方に1.5m位の高さで枝一杯の小さな花を咲かせたユキヤナギです。

ここからゆずり葉散策路へ進めばコバノミツハツツジもたくさん咲いています。

足を進めれば春のいろいろな花や植物、野鳥にも出会えます。春の息吹を感じながら白瀬の自然を楽しんでみてはいかがでしょうか。

白瀬川の植物も多彩に育ってきます。楽しみの多い春になりました。

「知ら咲か」は皆様から寄せられる記事や情報を取り上げて構成しています。原稿や情報をお寄せ下さい。又、取材員が訪れて取材をして記事にすることも出来ます。ご希望をお寄せ下さい。

【編集後記】

正月とともに大きな区切りとされる年度がわり、「知ら咲か」でも年度の反省と新年度への準備を進めています。

「知ら咲か」が成り立っているのは皆様の信頼が一番と考えています。地域の皆様の代表でもなく、普通の住民がよりよいまちへの思いを少しずつ、一歩ずつ出来ることから点検したり動こうとしているのが「知ら咲か」です。

試行錯誤が特徴でもあります。とにかく「やってみる」こと、そしてダメなこと、効果のないことは素早く検証し改める、やらなければ何も生まれないということを基本に考えています。又、いろいろな意見や提案を素直に受け止めるのも特徴と考えています。

総会を前に会則の改定も検討しています。この中で会のあり方や、組織形態についても意見を出し合い模索をしています。

普通の組織では縦型、あるいは上下関係が普通の考え方になっていようですが、みんなが横の並列な関係の組織があってもいいのかなというくらいの極論も否定せず組上に乗せ話しているのが今の状態です。

広報紙については地域の皆さんの交流の場としても利用いただける編集方針に少しずつシフトしていきます。